

口の細胞でシワ除去

名大教授の技術
VBが全国展開

名古屋大学教授が今秋から、再生医療を活用したアンチエイジング（抗加齢）医療の全国展開に乗り出す。患者の口の中から細胞を採取し培養、移植して加齢に伴う顔の

しわをとる。全国の総合病院などの協力を得て五年間で三十施設程度で実施する。老化を予防したり遅らせたりする抗加齢医療は米国で一九九〇年代から

スタート、国内でもここ数年盛ん。骨密度や血管の老化度を調べる抗加齢ドックを手がける病院も増えているが、再生医療のような最先端技術を使った本格的なものは珍し



い。

名大の上田実教授が開発した顔のしわとり法は、口の粘膜にある線維芽細胞を特殊な培養装置で一カ月半かけて約三千万個まで増やし、しわの部分に少量ずつ注射する。体への負担が軽く二回通院するだけで済む。患者本人の細胞を使うため拒絶反応も起きず安全性が高いという。

持続効果が三年以上期待できる。保険が使えない自由診療で費用は五十万―百万円になる見通し。医療ベンチャー、TESホールディングス（東京・千代田）と協力する。